

軍事極秘

規則第七十一條
適用

用済後焼却

整理
番焼

34

部ノ内

2號

十技研研報第一號(◎舟々)

昭和十九年九月四日
第十陸軍技術研究所

驅逐艇第二型式研究報告

0550

驅逐艇第二型式研究報告

第一 研究ノ起因

昭和十九年二月十三日附兵政技密第三九號訓令ニ依リ航空々冷發動機ヲ裝備スル驅逐艇第二型式ノ研究ヲ開始ス

第三 研究成果ニ對スル判決及將來ノ處置

一 判決

驅逐艇第二型式ハ構造及機能共ニ良好ニシテ實用ニ適ス

ニ 將來ノ處置

1 整備用圖書ヲ整備ス

2 必要ニ應ジ整備ニ關スル技術指導ヲ實施ス

第三 研究經過ノ概要

一 研究開始

昭和十九年一月末研究ヲ開始ス

二 設備

昭和十九年二月末基本設計ヲ完了シ同年三月末細部設計ヲ概成ス

三 試作

1 試作工場 三菱重工業長崎造船所

2 試作経過

昭和十九年四月 十日 起工

六月二十二日

進水

此ノ間ニ於テ技術指導ヲ行フ

七月二十日

試作完成

四 試験

自昭和十九年七月二十四日

至昭和十九年七月二十七日

間長崎市三重沖ニ於テ試作艇ノ完成検査ヲ兼テ連続航走試験、速

力試験、操舵及旋回力試験等ヲ實施ス其ノ結果各部ノ機能概テ良好ナルモ細部ニ於テ一部改

修ヲ要スル點アルヲ認ム

五 改修

試験後所要ノ改修ニ着手シ昭和十九年八月十日迄レテ完了ス、再検査ノ結果所期ノ成果ヲ收メ得タルヲ認メ研究ヲ終了ス

1370

0552

目的用途

主として沿岸に於ける駆逐及対魚雷艇戦闘に使用す

構造機能の大要

木製高速艇にして附圖ノ如キ一般配置ヲ有ス

駆逐艇第一型式トノ相違ハ空冷機関ノ使用ハ兵装ノ強化及船体構造ノ一部改造ニ在リ

(一) 船体各部

1. 船型

マ底ヲ有スル半排水型ニシテ舷角部に水取シヲ附ス

2. 船体構造

イ龍骨ハ櫓柱上下三材合セテシ其ノ上土層又ハ亜鉛等ヨリ成ル肋骨ヲ配置ス肋骨ノ心距

ハ二般ニシテ六〇〇トシテ其ノ前後部ヲ四〇〇トス

ロ外板及甲板ハ櫓柱又ハ櫓柱「ベニナ」板（尿素係合成樹脂接着劑ヲ使用ス）トシ其ノ厚

サヲ甲板及側板ニ於テ一二耗（六耗二枚合セ）底板ニ於テ一八耗（六耗三枚合セ）ト

ス

又外板及甲板ニ數條ノ目板ヲ配置シ底板及甲板ニ二及四本ノ縦通材ヲ設ク

（主機臺ハ機關圓形風洞ヲ放射狀ニ支持スル鋼製構造トシ其ノ上方ヲ機械室鋼製天蓋ニ支持ス、又排氣孔（二箇）ハ天蓋上面ニ吸氣孔（一箇）ハ其ノ後側面ニ之ヲ設備ス

3 諸室配置

イ甲板中央部ニ操舵室ヲ設ケ甲板下ニ倉庫、兵員室、兼彈藥庫、兵員室、無線室、號室、機械室、彈藥庫及燃料油槽室ヲ設備ス

ロ操舵室ハ「ベニア」製構造物ニシテ前面及後面ニ窓ヲ後部ニ出入扉ヲ又後方上部ニ遮風板ヲ設ケ所要ノ通信連絡設備ヲ有スル指揮所ヲ備ヘ操舵器、羅針盤、及速力通信器等ヲ保有ス

ハ諸倉庫ハ船体屬品ヲ格納ス

ニ兵員室兼彈藥庫ハ腰掛及彈藥箱（三七耗砲用）等ヲ有ス

ホ兵員室ハ兵員ノ休憩ニ用ヒ室内ニ腰掛及飲料水槽（二〇〇立入）ヲ設備ス

ヘ無線及ら號室ハ夫々無線機及ら號計器ヲ設置シ且所要ノ附帶設備ヲ備フ

ト機械室ハ主機械補機及軸係裝置等運轉ニ必要ナル諸機械裝置ヲ收容ス

子彈藥庫ハ二〇耗高射機關砲用彈藥及爆雷ヲ格納ス

リ艀部燃料油槽室ハ五〇立入楕圓形油槽二個ヲ又操舵室下部後方油槽室ハ九五〇立入
圓形油槽一個ヲ收容ス

4 舵

一個トシ之ヲ艀中央下面ニ設ク

5 其
他

イ甲板上面「ピット」「フェアリーダー」「クリート」等ノ曳航繫留裝置ヲ設ク

ロ操舵室前方及機關室天蓋後方ニ橋ヲ植立シ其ノ間ニ空中線ヲ展張ス

(二)

機
關
部

1 主
機
關

主機關ハ航空々冷發動機(星型)ニ基トシ其ノ周圍ヲ風洞ニテ覆ヒ機關室後方甲板ノ吸

氣口ヨリ空氣ヲ吸入シ主軸ニ直結セル風扇ニ依リ之ヲ冷却ス

艀ノ同轉方向ハ兩舷機共艀ヨリ見テ左廻リトス

2 軸
系
裝
置

主機關ノ軸系ハ主軸ニ直結セル風扇ニ依リ之ヲ冷却ス

0555

0220

軸系装置ハ中間軸逆轉機「クラッチ」主軸船尾管等ノ各部ヨリ成ル逆轉機及「クラッチ」ハ中間軸（六馬力始動電動機ヲ有ス）ヲ介シテ夫々左右兩舷機ニ連結シ其ノ動力ヲ主軸ニ傳達ス

主軸（爪型回轉止ヲ有ス）ハ其ノ一端ヲ逆轉機又ハ「クラッチ」ニ連結シ船尾管ヲ經テ艇外下面ニ突出シ端末ニ一個ノ推進器ヲ裝備ス

3 推進器

三枚翼ノモノ二個ヲ裝備ス

4 唧筒

艇内ニ左ノ唧筒ヲ裝備ス

燃料移動用手働「ポンプ」

滑油移動用手働「ポンプ」

海水呼水用手働「ポンプ」

海水排水用手働「ポンプ」

5 油槽

艇内ニ左ノ油槽ヲ設備ス

燃料「タンク」(七五〇立入) 二

燃料「タンク」(九五〇立入) 一

燃料集合「タンク」(一〇立入) 一

滑油貯蔵「タンク」(一六〇立入) 一

滑油循環「タンク」(四〇立入) 二

6 其ノ他

所要部位ニ滑油冷却器諸計器諸管濾器并及「コック」類等ヲ設備ス

(二) 電氣部

1 電源

機關始動用照明用及連絡用電源トシテ機關室内ニ二四V一八〇AH蓄電池ヲ又無線及ら號用電源トシテ兩室内ニ二四V一二〇AH蓄電池ヲ設備ス其ノ充電ハ右舷機ヨリ「ベルト」ニヨリ傳導スル二四V一KW直流發電機一基ニ依リ之ヲ行フ

2 電氣機器

二四V六馬力始動電動機二基照明裝置及通信連絡裝置等ヲ主トス

(四) 兵裝

0557

8220

1 三七耗舟艇砲

鎗甲板上ニ之ヲ裝備ス

2 九八式二〇耗高射機關砲

機關室後部甲板上ニ之ヲ裝備ス

3 爆雷投下機

艙部兩舷ニ之ヲ裝備ス各器六三式爆雷四個ヲ收容ス

4 爆雷

投下機ニ八個彈藥庫ニ四個ヲ收容ス

5 無線機

無線室ニ船艇無線機甲ヲ裝備ス

6 號裝置

右舷々側ニ送受波器ヲ甲板上ニ其ノ架及操縱裝置ヲ號室ニ其ノ他ノ計器類ヲ設備ス

三 主要諸元

全長

一八米〇〇〇

最大幅

四米三〇〇

0558

主 機 關	型 式	最 低 速	常 用 速	最 高 速	航 續 距 離	滿 載 狀 態	常 備 狀 態	輕 荷 狀 態	排 水 量 及 吃 水	深 サ
九七式六五〇馬力航空々冷發動機	二基	九・〇節	二一・〇節	二五・七節（公試狀態）	約 二〇〇哩	二一噸九六一	二二噸二一四	一六噸七九八	排水量 吃水（平均）	二米〇〇〇

九七式六五〇馬力航空々冷發動機

二基

九・〇節

二一・〇節

二五・七節（公試狀態）

約 二〇〇哩

二一噸九六一

〇米六八一

二二噸二一四

〇米六六九

一六噸七九八

〇米五九〇

排水量

吃水（平均）

二米〇〇〇

0280

0559

船艇無線機甲	爆雷投下器	九八式二〇耗高射機關砲	三七耗舟艇砲	美海軍式機	同轉數	展開面積	直徑	數	推進機	最常用高	最常用高	最大軸馬力	毎分回轉數
一式	二基	一門	一門	一門	六五〇(毎分)	〇・二二〇〇平方米	〇米七三〇	〇米六一〇	二	二八〇〇	二八〇〇	九三〇馬力(公試狀態)	二二〇〇(公試狀態)
						〇米六六六	〇米六八二	〇米六八二		二八〇〇	二八〇〇		
						〇米五五〇							
						四米(半)							

0560

0560

ら 號 裝 置 一 式

第五機(秘)密兵器ノ取扱區分

軍事極秘

第六研究擔任者

科 長 陸軍中佐 內 山 鐵 男

主任者 陸軍技術大尉 佐 藤 茂 良

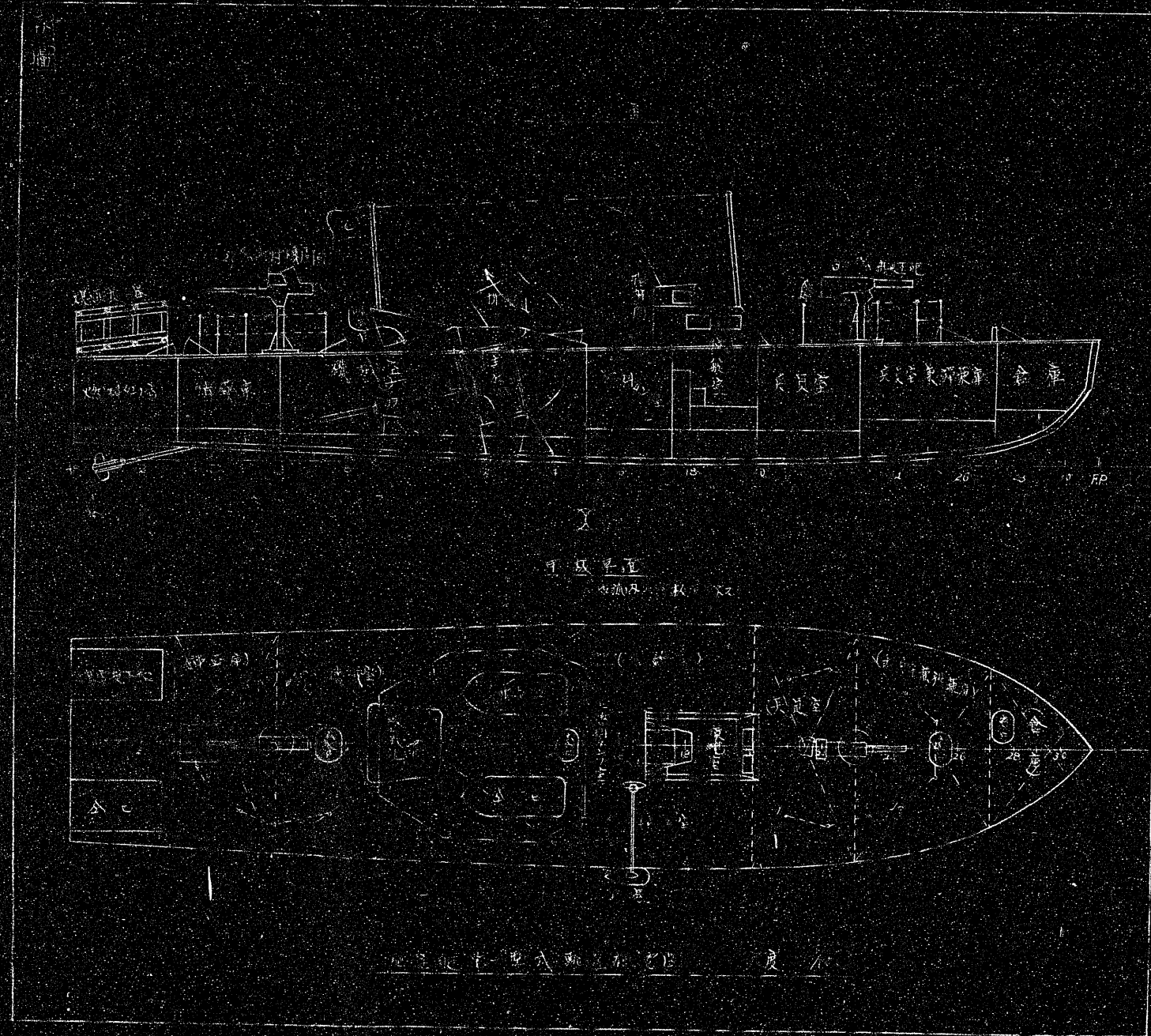
陸軍技術中尉 島 田 茂 良

陸軍技術中尉 西 川 正 喜

配布先

兵政本(一三)一研(二)二研(二)三研(一)四研(一)五研(一)

0561



0562